

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|------------------|---|
| 学校名 | 唐津市立東唐津小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | ①児童の主體的な学びとなるよう指導方法を工夫・改善した結果、児童の表現力が伸び、「知・徳・体」の向上へとつながった。今後、「SDGs」の研究を中心に、学習活動と児童の意識との関連を明らかにし、各教科の学びと結び付けながら取組を一層充実させる。 ②「ひがしっ子」の合言葉のもとに、児童の「出番・役割・承認」を充実させ、児童の頑張りを称賛してきたことにより、児童の自己肯定感の高まりが見られた。今後、児童自らが「気付き・考え・協働する」取組へとなるよう、指導・支援の充実を図る。 ③様々な活動の「振り返り」を行う活動が、児童自身の学びの確認だけでなく、自分の長所や授業で果たした役割などの気付きにもなり、自己有用感を高めてきた。今後も、キャリア教育の一環として、児童の夢や次の目標、「志」とつながるよう、取組を継続、充実させる。 ④1人1台タブレット端末を授業に取り入れ、個別の学習状況に応じた問題に取り組みせたり、児童全体の学習意欲を喚起させたりすることができた。今後、誰もが安心して授業に参加でき、友達と協働して学ぶことができるような活用方法や指導、支援の工夫を充実させる。 ⑤業務改善・教職員の働き方改革への職員の意識は定着してきた。今後は、管理職のマネジメントの下で、職員の魅力を伸長するとともに、限られた勤務時間内に、児童への指導、支援の質をどのようにして高めるかを組織的に検討し、更なる充実を図る。 |
| 2 学校教育目標 | みんなと確かに伸びる子どもの育成 ひびきあうあいさつ(体力・健康・生活の向上) がんばる勉強・読書(学力の向上) しっかり仕事(生き方・キャリア教育の推進) コミュニケーション(地域連携・仲間づくりの推進) |
| 3 本年度の重点目標 | ①児童が主体的に学習や生活、学校行事等に関わる組織づくりと手立てを工夫し、児童の「知・徳・体」の向上を目指す。 ②「ひがしっ子」の合言葉のもと、児童・職員・保護者・地域が目標を共有し、連携を深めながら、児童の「知・徳・体」の向上を図る。 ③キャリア教育推進のための手立てを確立し、児童の「志」の確立と自己有用感の向上を図る。 ④個別最適な学びと協働的な学びの視点に立ったインクルーシブな特別支援教育の推進を図る。 ⑤業務改善・教職員の働き方改革による、ゆとりある教育活動の推進を図る。 |

| 4 重点取組内容・成果指標 | 5 最終評価 |
|---------------|--------|
|---------------|--------|

| (1)共通評価項目 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|--|--|---|--|-------------|---|---------|--|-------------|
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ○全教科で自分の考えを伝え合う活動を実践する。 | ○児童の学習活動に対して「場面や相手に応じて自分が考えたことを分かりやすく伝えることができる」と回答した児童の割合が80%以上 | ・児童が原稿を作らず、その場や相手に応じて、考えて伝える活動を充実させる。 ・友達の発言に反応したり、反応に応じて伝え方を調整したりできるよう指導する。 | A | ・児童へのアンケートでは、「場面や相手に応じて自分が考えたことを分かりやすく伝えること」について、「できている」「だいたいできている」と回答した児童の割合は90.4%であった。 ・児童ができるようになったアウトプットを効果的に関連付けたり、対話へ広げたりする活動へと発展させる教師の指導技術を磨く必要がある。 | A | ・児童の「考える力」が身に付くよう工夫された授業がなされている。 ・小規模校ならではの、一人一人に合わせた授業がなされている。児童はよく発表し、集中して受けることができている。 ・中間評価と比較すると保護者の評価が下がっている。その原因を検討する必要がある。 | |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○ふれあい道徳や人権教室(なかよし道徳)後の振り返りや感想において、肯定的な回答をした児童の割合が80%以上 | ・道徳や人権・同和教育の研修を共同して行い、授業実践を深める。 ・外部講師を積極的に招き、児童に「命」「仲間」「共生」について考えさせる。 | A | ・外部講師を招き、「命」「仲間」「共生」について考えさせる機会をもった。肯定的な振り返りや感想を記した児童の割合は、96.5%であった。 ・児童が学んだことを生活に生かすことができるようするため、豊かな心を育む機会を増やす方向で、次年度の実施方法を検討する。 | A | ・人権コンサートやインドネシアの方との交流会など、家庭ではできない経験の中で、児童の心に響く取り組みがなされている。 ・児童の自主性を重んじる教育がなされている。 ・児童や保護者、教師へのアンケートでも、評価が高いので、この取り組みは続けてほしい。 | 人権・同和教育担当 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止等)についての取組、事案対処等)について、組織対応ができていると回答した教師の割合が85%以上 | ・毎月末に全児童を対象とした「なかよしアンケート」を実施し、児童の実態を把握する。いじめを覚知したら、全職員で解決を図る。 ・児童の様子等を共有する子供理解研修会を毎月実施し、全職員の共通理解を図る。 | A | ・いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止等)についての取組、事案対処等)について、組織対応ができていると回答した教師は100%であった。 ・いじめへの対応と合わせて、いじめの予防のために、日頃の一人一人に寄り添う学級づくりや仲間づくりにより力を入れる必要がある。 | A | ・十分に行き届いた配慮、教育がなされていると感じている。 ・様々な事案に対して、早々な対応をいただいているとうかがっている。安心していい。 ・いじめを把握すれば、教師はその対応に苦慮する。アンケートで否定的な回答をした家庭に寄り添いつつ、重大になる前に早期対応ができるよう取組を続けてほしい。 | 生徒指導担当 |
| ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取組もうとするための教育活動 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童の割合が85%以上 | ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童の割合が80%以上 | ・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりを推進する。 ・キャリアパスポートを活用し、児童の夢や目標を可視化し、指導へ生かす。 ・ソーシャルスキルトレーニング等を通して児童のよいところを積極的に称賛する。 | A | ・児童へのアンケートで、「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童の割合は、90.4%であった。また、「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童の割合は、88.5%であった。 ・今後も、「よいところを認める」教育を推進していく。 | A | ・地域に根差した教育に熱心で、様々な外部講師を招いた授業が行われている。児童が目標をもつことができるよい経験になっている。 ・児童の肯定的な回答の割合が高いのが嬉しい。保護者は、ついよくないところに目を向けてしまうため、よいところを認めてもらう指導に感謝している。 | キャリア教育担当 |
| | ○ひとりひとりを大切に教育の充実 | ○児童の対応について組織的対応ができていると回答した教師の割合が80%以上 | ・要配慮児童についてケース会議を開催し、情報共有や支援の検討を行う。 ・教育相談に関わる職員研修を実施する。 | A | ・児童一人一人に応じた適切な支援ができていると回答した教師の割合は100%であった。 ・今後も研修の場を設け、教師の意識を高めていくとともに、職員間での情報共有を行い、チームで支援の検討を行う。 | A | ・本校が一番自慢してよいところだと感じている。 ・様々な児童の個性があるが、個性に合わせた対応をしている。 ・おおむね良好である。 | 教育相談担当 |
| ●健康・体づくり | ●「運動習慣の改善や定着化」 | ●「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上となる児童の割合80%以上 | ・1週間での運動時間、朝ラン20分、休み時間180分、放課後・休日220分以上を呼びかける。 ・交通安全教室や定期的な安全指導を実施し、交通安全への意識を高める呼びかけ、取組を行う。 | A | ・朝ラン1日5分以上ががんばっている児童の割合は、82.7%。休み時間に週2日以上運動している児童の割合は、69.2%であった。 ・本校児童の交通事故件数は、0件。 ・走るだけではなく、季節や学校行事に沿った運動の楽しさが、学校内から放課後や休日の社会スポーツへ広がる楽しさを伝えていく。 | A | ・体力向上に関しては、アンケート結果にも高評価が出ている。また、休み時間に校庭で遊ぶ姿をよく見かける。頼もしく感じている。 ・毎朝、校長が通学路に立ち、安全指導をされていることに、地域住民は感心している。 ・学校の中ではよく取り組んでいるようである。あとは、どのように家庭や地域と連携し、取り組んでいけるかが課題である。 | 健康部・体育主任 |
| | ●「安全に関する資質・能力の育成」 | ●「健康に良い食事をしている」児童の割合が80%以上 | ・生活状況調査と食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりと給食だよりを月に1回以上発行し家庭との連携を図る。 | A | ・食に関するアンケート3項目において肯定的な回答をした児童は88.7%。朝食をとって登校する児童は96%であった。 ・望ましい食習慣を育むために、学校と家庭とで連携して食育に取り組む必要がある。 | A | ・ランチルームもでき、児童が自分で配膳し、全員と一緒に食べることができるようになった。このことで、良い食育ができていると感じている。 ・児童の食べ物の好き嫌い以外は、アンケートへの肯定的な回答の割合が高い。安心していい。 | 健康部・食育担当 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | ・教師個々が時間外在校時間を自覚できるような個人記録を作成する。また、定時退勤日(原則毎週金曜日)を設定する。 | A | ・4月から2月までの時間外在校時間の平均は23時間21分で上限45時間を下回っている。 ・教育のDX化により事務が効率化し、授業や教材研究等により注力できる環境が整ってきた。教師のスキル向上を図る必要がある。 | A | ・教師の意識アンケートの肯定的な回答の割合が高いことや、時間外在校時間の記録の月平均を見ると良好であるが、質的な向上を求める必要もある。 ・先生も心と体の休養を。健康が一番です。 | 教頭 |
| | ○ICT利活用推進(業務の効率化) | ●「授業でICT機器を利活用できる」教師の割合が85%以上 | ・児童の実態や学習内容に合わせた、電子黒板や一人一台タブレット端末などのICT機器の有効活用を推進する。 | A | ・教育の情報化の実態等に関する調査(3月)の回答から「授業でのICT機器の利活用できる」教師の割合は86.7%。教師の技能、活用能力に応じた更なる研修が必要である。 | A | ・授業を参観し、良く活用されていると感じた。児童に説明をさせる際、考えさせてから答えさせる道具として効果的であった。充実している。 ・学習方法の工夫に感心させられる。 | 教育情報化推進リーダー |
| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ◎「志」を高める教育 | ○全校児童に「出番」を与え、各々に「役割」をもたせ、頑張りを「称賛」することで児童の「自己有用感」を高める | ◎「自分は、誰かの役に立っている」と回答した児童の割合が80%以上 | ・児童に短期、中期、長期の目標をもたせ、児童の頑張りに対して、具体的な称賛と励ましを繰り返しながら自信と意欲を高める | A | ・「自分は誰かの役に立っている」と回答した児童の割合は、88.2%であった。 ・今後も児童の頑張りを見逃さず、称賛と励ましを繰り返しながら自信と意欲を高める関わり方を続けていく。 | A | ・保護者の評価も高い。この取り組みはぜひ続けてほしい。 ・教室や廊下に掲示してある作品からも、児童の「出番・役割・承認」の姿を見て取れる。 ・家庭とどんどん連携していきたい。 | |
| ○地域連携・地域を愛する人材育成 | ○PTAや地域と交流する活動への積極的な企画、参加 | ○交流活動で地域の良さに気付き、存続させようと考えた児童85%以上 | ・松原保全活動やSDGsの取組、海洋教育パイオニアスクールプログラムを地域との結びつきから自分事として考えさせ、切実感や必要感を持たせる。 | A | ・地域の良さに1つ以上気付きができた児童の割合は、88.5%。地域の良さを存続について考えた児童の割合は、90.4%であった。 ・地域やPTAに協力を仰ぎ、地域の良さや課題を実感できる交流活動を継続して実施する。 | A | ・公民館の数々行事に参加してもらっている。次年度も積極的に参加してほしい。 ・SDGsや海洋教育は本校ならではの強み。地元を愛する子供が育つ取り組みである。 ・コロナ禍より少しずつ活動が戻りつつある。更なる連携を期待している。 | 教頭 |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

| | |
|--------------------|--|
| 5 総合評価・ 次年度への展望 | ①学力向上、心の教育、健康・体づくりに関する取組が、児童の「知・徳・体」の向上につながったことがうかがえる。今後は、学習指導方法の改善、充実、基盤となる仲間づくり、一人一人に寄り添う教師の人材育成の観点から具体的に取組を見直し、より一層の充実を図る。 ②コロナ禍で薄れていた児童、教員、保護者や地域が連携した学校行事等が再回ってきたことにより、児童の「知・徳・体」の更なる向上が見えてきた。今後は、「ひがしっ子」の合言葉のもとに、地域とともに各行事等の目的を再確認しながら時代に合った更なる連携を模索し、実施していく。 ③児童への「出番・役割・称賛」が、児童の「自己有用感」を高めることへつながったことがうかがえる。今後も、児童の頑張りを的確に見取り、称賛と励ましを続けていくだけではなく、広く地域、家庭との連携を強めながら、児童のより高い「自己有用感」を目指してキャリア教育を充実させる。 ④本校の特色を生かした一人一人を大切に教育、障害の有無に関係なく、誰もが一緒に学ぶ教育への取組が数値目標に達することができた。今後は、取組により見えた課題を解決すべく教職員の研修、研鑽に励み、それぞれの教育の質的向上を組織的に検討し、更なる充実を図る。 ⑤業務改善・教職員の働き方改革の数値目標は達成できている。今後は、管理職のマネジメントのもと、本改革の趣旨である子供と向き合う時間の確保と教育の質の向上に向けて、各教職員の指導技能の向上、教職員の人材育成に向けた実効的、効率的な研修を実施し、さらなる充実を図る。 |
|--------------------|--|